


# 古典なんて 勉強する必要ない？

私は **NO** だと思う。

近年、古典は不要だという声を聞く機会が増えました。翻訳で内容さえ理解できれば、原文を読む必要は無いと。しかし、古典は表現が命。翻訳では消えてしまうニュアンスから、作者の心に迫り、想いを通わせる。まるで、時代を越えて大昔の人と会話をするかのように。そうした時を超えた交流こそが、『人間とは何か』という問いへの手がかりになるのではないかと考えています。



<b>土屋 聡</b> TSUCHIYA Satoshi	専門	<b>漢文学 中国文学 中国の古典教育</b>		
	研究キーワード	中国文学 文学一般		
教育学域 教授	授業内容	主要研究課題	もっと知るには 	
大学院：教育科学専攻(修士課程) 担当	1, 国語(古典)教科書の分析 2, 漢文の文法 3, 漢文音読の方法 4, 翻訳の方法	1, 六朝文学研究Ⅰ(陶淵明ほか文人の研究) 2, 六朝文学研究Ⅱ(石刻資料の研究) 3, 日中古典教育の比較研究		
学位 学士(文学)(都留文科大学) 修士(文学)(九州大学) 博士(文学)(九州大学)				

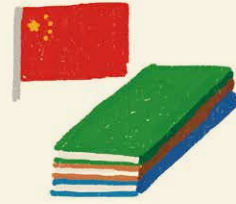
# 土屋の漢文学

## 01 表現が命 心を読む漢文学



漢文教育では文法も大切ですが、表現を楽しむ心構えも同じくらい重要です。もちろん勉強としても読みますが、自分を投影し、自分と向き合う読書体験としても、漢文学を楽しんで欲しいと思います。その経験は、子ども達に伝えていく過程でも生きてくると思います。

## 05 中国の国語の教科書を研究



中国の中学・高校の国語教科書を集め、研究しています。中国における古典教育(日本で言えば漢文にあたる内容)の実践を分析し、その優れた点を日本の漢文教育に取り入れたいと考えています。

## 02 作品の背景 時代を知ること



漢文学の中でも特に「六朝文学」を専門に研究しています。当時の中国は戦乱の世。さらに、書物なども幾度も焼失した時代。なぜ現代までこの作品は残り続けたのか。時代背景を知ることで、理解は何倍にも深まると考えています。

## 豊富な古い資料 足りなければ中国へ



古い本の専門的な取扱も指導しています。岡山大学には、江戸時代の本など多くの資料があり研究に活用できます。実際に中国に行き、図書館などで資料を探したりすることもありました。また、全国漢文教育学会に所属しており、興味がある学生と一緒に参加することも可能です。



## 03 漢文を読むリズムに スタンダードを

日本の俳句や和歌には読む時に決まったリズムがありますが、漢文にはそれがありません。例えば「春眠暁を覚えず」をどう読むか。抑揚をどうつけるか。「春」にアクセントをつける? 最後を少し伸ばす? 感情移入するリズムのスタンダードを確立しようとしています。



## 07 自分の興味を 漢文の世界で研究

孔子は偉人として描かれる一方、神格化されすぎるあまり怪物のような体格を持つ異形として表現された時代があり、それを研究した卒論がありました。他にも杜甫の詩に登場する食べ物テーマにするなど、学生は自分が関心ある内容を漢文の研究につなげて楽しんでいます。

## 04 なぜそこに 返り点が必要か



漢文の文法をベースに「返り点をどうつけるか」から伝えています。教科書に既に付いているからいらない、という意見もありますが、なぜそこにレ点なのか、先生自身が説明できなければ意味がない。原文に自分でつける経験をすることでその解像度はグッと上がります。

## 08 規律を作らず 背中を見せる



「かくあるべし」とルールを示すのではなく、「自分はこう読む、なぜならば……」と自らの行動や思考で見せることが理想の指導だと考えています。放任にならないよう配慮しつつ対話的に導く。そうして、表現を手がかりに作者や登場人物の心に迫る国語教師に育ってくれたら嬉しいです。

表現



読解



探究心

研究室からの風景  
SCENERY FROM THE LABORATORY

漢文の表現を楽しむとは  
「論語」の有名な一節を使って紹介します

子曰、  
学而時習之、  
不亦説乎。

孔子は、「学んだことを復習し身につけていくことは、なんとよろこばしいことではないか」と言いました。

またよろこばしからずや

直訳

よろこばしくないだろうか、  
いやよろこばしい。……？

実は相手に同意を求めるような言い方なんですよね。自分の主張に対して、あなたもそう思いませんかという言い方です。



文法的には「反語」ですが  
それだけでは味わい方が  
足りません。

解釈

孔子は弟子たちに、よろこばしいんだよって  
いうことを言いたかったのではなく、  
あなた達もよろこばしいと思うよねって  
共感を求めているわけですよね。




表現として味わう

たぶん孔子はやさしい笑顔だったのではないのでしょうか。  
弟子達が書き残した孔子のイメージは、原文で味わうことで  
想像が進みます。彼らの表情や距離感、口調など  
色々と見えてきますよね。



※イラストはイメージです

<p>土屋 聡 TSUCHIYA Satoshi</p>	<p>専門 漢文学 中国文学 中国の古典教育</p>	<p>もっと知るには </p>
	<p>研究キーワード 中国文学 文学一般</p>	